

# 《ミニブレイク164》 アンディ A.マレーの錦織対し!

監修/辻野隆三(MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順

ATPツアーマスターズ1000  
マドリード大会準決勝

<p>アンディ・マレー</p> <p>1987年5月15日生まれの28歳 身長190cm/体重84kg イギリス・ダンブルーン出身 対戦時のランキング3位</p>	<p>錦織 圭</p> <p>1989年12月29日生まれ25歳 身長178cm/体重74kg 島根県松江市出身 対戦時のランキング5位</p>
---	--



テニスクラシックBreak誌掲載(日本文化出版)  
まんが:いしかわせいぢゅん

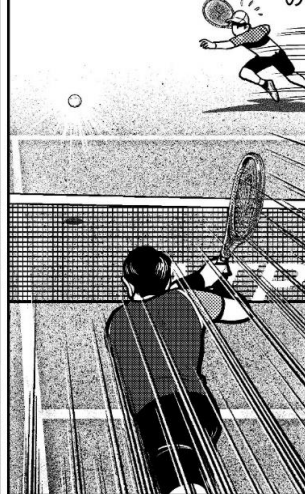
Point ②



「甘いセカンドは叩く」というブレースタイルを確立させようとしてきているようです

マレーは昨年から今シーズンにかけて相手のセカンドサーブの時にコート内に入ってレシーブし

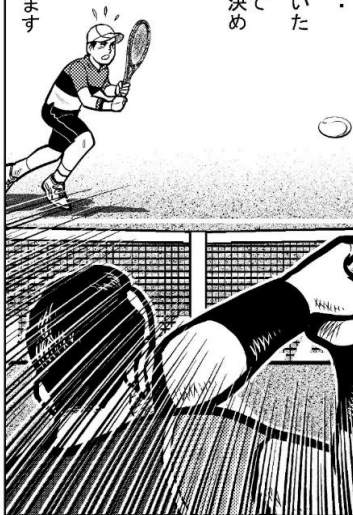
第1セットの第6ゲームには30と40とポイントも握られても



さらに同じゲームの3度目のアドバンスでは

ダウン・ザ・ラインを警戒していた錦織の逆を突いてクロスへ決め

大事なゲームをキープします



錦織のサーブで始まった第1セット第1ゲームの2ポイント目に

セカンドサーブをフォアで強打

同じゲームの15と30ではバックで強打と錦織にプレッシャーをかけます

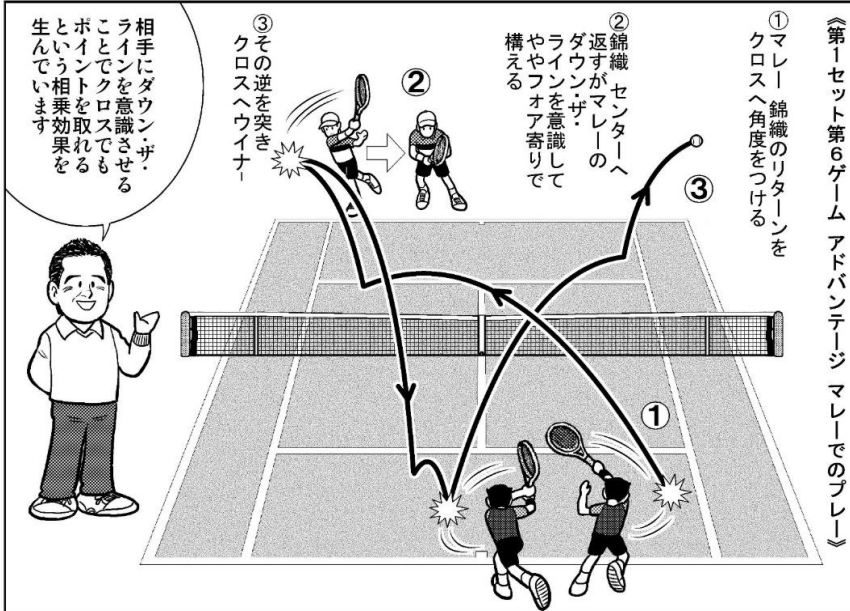


① マレー 錦織のリターンをクロスへ角度をつける

② 錦織 センターへ返すがマレーのダウン・ザ・ラインを意識してややフォア寄りで構える

③ その逆を突きクロスへウイナ

相手にダウン・ザ・ラインを意識させることでクロスでもポイントを取れるという相乗効果を生んでいます



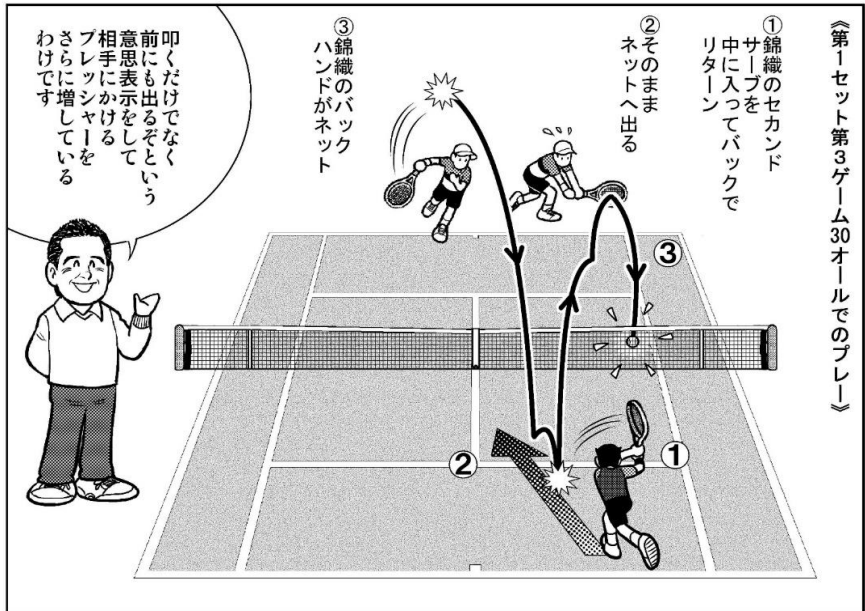
《第1セット第6ゲーム アドバンス マレーでのプレー》

① 錦織のセカンドサーブを中に入れてバックでリターン

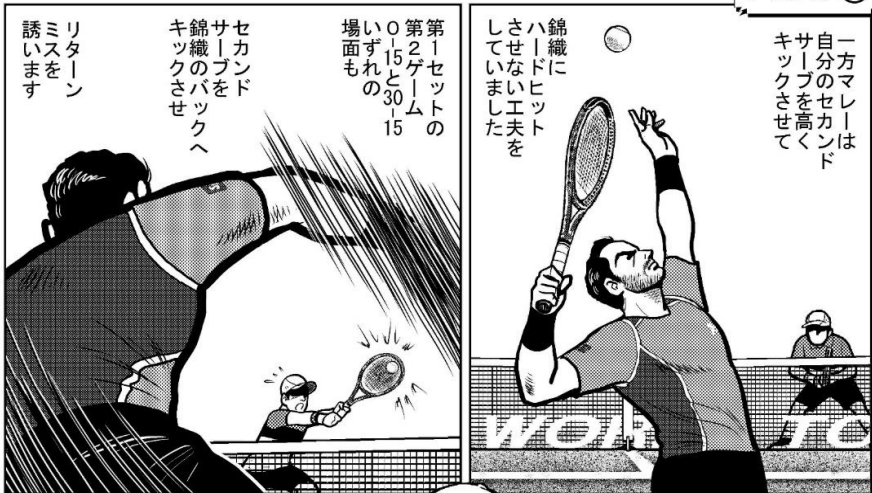
② そのままネットへ出る

③ 錦織のバックハンドがネット

叩くだけでなく前にも出るぞという意思表示をして相手にかけるプレッシャーをさらに増しているわけです



Point ③



一方マレーは自分のセカンドサーブを高くキックさせて

錦織にハードヒットさせない工夫をしています

第1セットの第2ゲーム0-15と30-15いずれの場面も

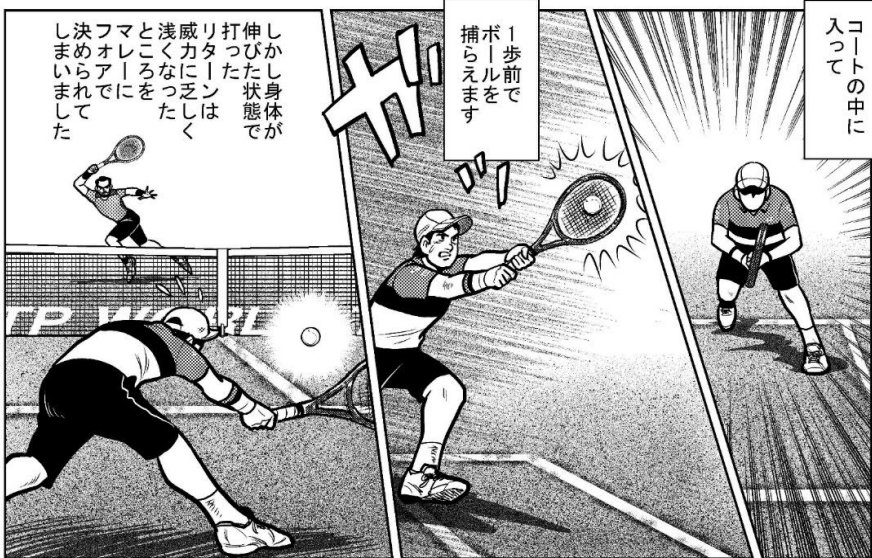
セカンドサーブを錦織のバックヘキックさせ

リターンミス誘います



錦織も黙ってやられてはいるわけにはいきません

第2セット第7ゲーム40-0ではサーブに備え……

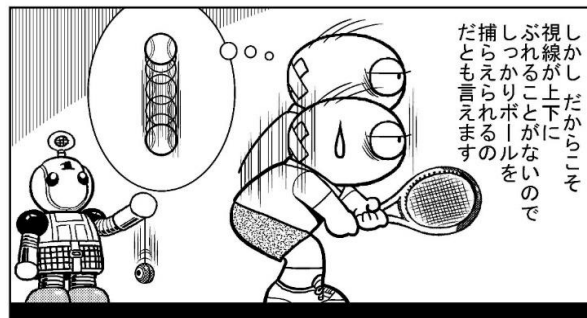


コートの中に入って

1歩前でボールを捕らえます

しかし身体が伸びた状態で打ったリターンは威力に乏しく浅くなったりマレーに決まらなりました

決まらなりました



しかしだからこそ視線が上下にぶれることがないので捕らえられるのだとも言えます



マレーはリターンの時身体をあまり上下させません

悪く言うと突っ立ってる感じにも見えます



第2セット第4ゲーム直前にマレーのプレビスをキープしたが……



わずかに長く痛恨のダブルフォルト!

その後も2連続でセカンドサーブをリターンエースを奪われた錦織はマレーにプレビスを許し自分に傾きかけた流れを食い止められず

これは明らかにマレーのプレッシャーが効いている証拠ですね



30オーバーでセカンドサーブが



